

2 コラム RAMPWAY
泉 麻人

特集 人づくり

5 「構想力」が未来を拓く
一般財団法人 日本総合研究所 会長
野田一夫

9 メンテナンス技術者を育てる
東京大学・政策研究大学院大学 教授
家田 仁

13 CHALLENGE
未来を担う人づくり

14 コラム オン・ザ・ロード 三木 卓

16 首都高HEADLINE

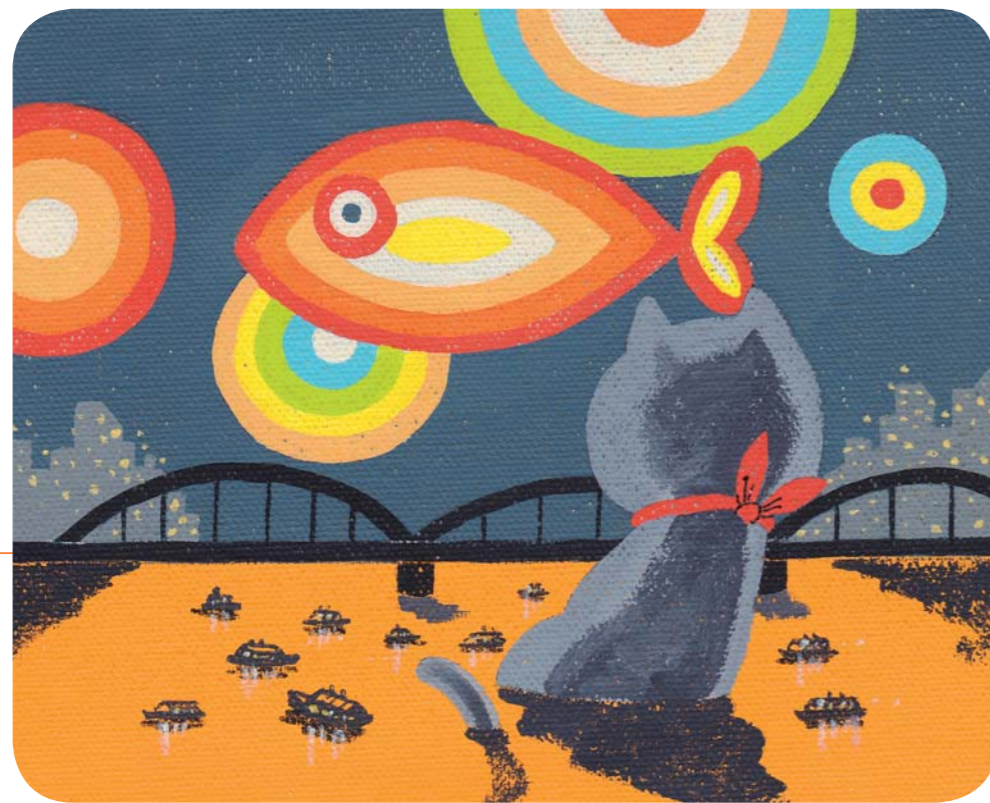
18 business essay
ロボットを育てる
東京工業大学 情報工学研究所 准教授
長谷川 修

20 つくる人まもる人
首都高機械メンテナンス株式会社
石田孝史

22 高速百景 中野正貴

cover photo by Minoru Saito
contents produced by
Metropolitan Expressway Company Limited

illustration by Takao Nakagawa



column | RAMPWAY 17

首都高名所案内
隅田川花火の
浅草風景

コラムニスト
泉 麻人

昔、実家にあった「サザエさん」の古いコミックスにこんなネタがあった。川べりで家族と一緒に花火見物していたネコが、「たまや」の掛け声を聞きながら、今日は何度も名前を呼ばれてうるさい……なんてことを眩く、みたいな話。細かい所はハッキリしないが、これはおそらく両国で花火大会をやっていた頃のマンガだろ

う。江戸から続く両国の花火は、隅田川の水質悪化や付近の交通渋滞を理由に昭和30年代の中頃、一旦中止されたが、昭和53年の夏、少し上流の浅草に場所を移動して、いまま隅田川花火大会の名で引きつがれている。昭和53年（1978年）夏という、僕は大学生最後の年のことだが、デイスコを舞台にした映画「サタデーナイトファイ

バー」がヒットして、ファイバーのフレーズが流行語となった。

そんな大学時代、というか週（まご）属の中学時代からの友人が浅草にいて、80年代に入る頃からしばしば彼の家で夏の花火を見物するようになった。いま場所はちよつと変わってしまったのだが、当時の彼の住み処は松屋向かいの隅田公園脇のマンション。8階あたりの部屋は、まさに花火見物に打ってつけの場所だった。ただし、細かいことをいえば、2か所の打ち上げポイントの間あたりの位置なので、窓べりに行って、首を左右に振らないと花火自体はよく見えない。だ

いたい7、8人の仲間が寄り集まって、持ち寄った酒やツマミを飲み食いしながら見物始めるわけだが、酒食が進むうちにいちいち窓際まで行って花火を眺めるのがめんどくさくなってくる。しばらく休んで、フィナーレ近くのエキシビジョン的なシーンを感傷的な気分で見納める。

花火ばかりでなく、周辺の景色に目を向けると、灯りをともした屋形船が隅田川にいくつも浮かび、その向こうの堤上を首都高速6号向島線が横断している。吾妻橋の際の金色オブジェを載せたアサビビールの建物も、もはや

すっかり浅草風景のなかに定着した。この場所で花火見物を始めた当初は、まだ昔ながらのぼんやりしたネオン看板を掲げたビール工場だったのを出す。そう、伸びかけのタケノコみたいな状態だった東京スカイツリーの姿を、初見したのも何年前か前の花火見物のときだった。

花火がハネた後、町に練り出して飲み直すのも嬉しい。花やしきの横っちょあたりに集まった、バラック建ての一杯飲み屋の類もいけれど、浅草はシャレたショットバーがいくつも点在している。僕が友人とよく寄るのは、浅草寺の向こうの路地にひっそりと看板を出す「F」。玄関で靴を脱いで上がると、板の間に5、6席ばかりの小さなカウンターがある。パーティーのM君は、僕らがひと頃ROXの屋内コートでやっていたフットサルのメンバーだった。10年ほど前、僕は右足のふくらはぎに肉離れを起こして、ボールを蹴るのをやめてしまった。

いずみ あさと / 1956年、東京都新宿区生まれ。慶應義塾大学商学部卒業。79年、東京ニュース通信社に入社。「週刊TVガイド」などの編集者を経て、フリーのコラムニスト。近著に『大東京23区散歩』（講談社）がある。